

10月は食品ロス削減月間

10月30日は食品ロス削減の日

食品ロスをなくすために何ができるか考えてみよう!

食品ロスとは

食品ロスとは、食べられるのに捨てられている食品のこと。日本では年間で600万トン以上の食品ロスが発生しています。

日本人1人あたりに換算すると年間50kg、毎日お茶碗1杯分(約140g)の食べ物を捨てている計算になります。

家庭から約300万トン!

600万トンを超える食品ロスのうち家庭から発生する量は約300万トンで、おおよそ半分を占めています。



イラスト出典：食品ロス啓発用パンフレット(基礎編) 平成30年10月版(消費者庁)加工して使用

食品ロスをなくそう!

大切なことは1人1人が「もったいない」を意識して行動すること。

お買い物編

★マイバッグ持参で
レジ袋も削減

- ①買い物前に食材をチェック
- ②足りない食材を必要な分だけ
- ③期限表示を知って賢く買う

賞味期限はおいしく食べられる期限。消費期限は食べても安全な期限。

賞味期限は過ぎててもすぐに廃棄せずに、自分で食べられるかどうか判断することも大切です。

ご家庭編

★食品ロスはお金のロス

- ①正しい方法で保存する
- ②食材を上手に使い切る
- ③食べ切れる量を作る
- ④ご家庭で話し合いを!

ご家庭で実践できることがないか話し合ってみましょう。

- ・好き嫌いをせず残さず食べる。
- ・食品ロスを計量、記録し現状を知る。 など…

外食・宴会編

★みんなで実践!
30・10 運動

- ①味わいタイム
 - ・乾杯後30分間は料理を楽しむ。
- ②楽しみタイム
 - ・全員で親睦を深める。
 - ・料理のことも忘れない。
- ③食べ切りタイム
 - ・お開き前の10分間はもう一度料理を楽しむ。
 - ・幹事は「食べ切り」を呼びかける。

知ってもらいたい・・・

食品ロス削減は地球温暖化対策にも繋がります。食品は多量の水分を含んでいるため処理施設での焼却にたくさんの時間、電気、燃料が必要となります。

食品ロスの削減はごみ処理施設の負担を軽減し、排出される温室効果ガスの削減にも繋がるのです。

枕エコサポーター募集!

ゴミ減量化に繋がる効果的な取り組みを積極的に実践していただける方、周りへの声掛けやいろいろな実践アイデアなどを市の方へお寄せいただける方、市と協働でゴミ減量化へ向けた取り組みに協力いただける方を募集します。

詳細は、下記の問合せ先までご連絡下さい。

問合せ 市民生活課環境整備係 TEL72-1111(内線 325・327)



令和元年度

「全国学力・学習状況調査」結果

文部科学省が全国の子どもの学力状況を把握するために毎年実施する「全国学力・学習状況調査」の結果を公表します。

文部科学省は、4月に小学6年生と中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」(全国学力テスト)を実施しました。今年度は、小学校の国語、算数の2教科、中学校の国語、数学、英語の3教科の学力調査が実施されました。また、家庭での生活等の調査も併せて行いました。今回、本市の調査結果と全国、鹿児島県の学力の結果を公表します。

※鹿児島県の結果分析については、国立教育政策研究所ホームページに掲載されています。

学習状況調査

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査結果を、質問紙を用いて調査しました。

学力調査

調査問題では、次の①と②が一体的に出題されました。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるような内容が望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

●学力調査の結果と考察

【小学校：本市と県・全国の平均正答率比較】

	県平均以上	※ 全国平均以上
小学6年生		
枕崎市	68 ※	66
県	66 ※	65
全国	63.8	66.6

【中学校：本市と県・全国の平均正答率比較】

	県平均以上	※ 全国平均以上
中学3年生		
枕崎市	72	59
県	70	57
全国	72.8	59.8

考察

小学校、中学校ともに、全教科において県平均以上の結果でした。特に、小学校の国語は全国平均を4.2ポイント上回りました。しかし、中学校の国語、数学は、全国平均に0.8ポイント届かず、英語は3.0ポイント下回る結果となりました。特に、中学校では、1校が極端に低く、市全体の平均を下げる結果となりました。今回の調査では、全ての教科で全国、県平均を上回る学校がある一方、全ての教科で全国、県平均に届かない学校もあり、学校間の格差がみられました。

学力向上に向けての取り組み

- ・本調査結果で明らかにした課題を詳しく分析し、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図り、児童生徒が「わかる」「できる」「喜びを味わえる授業を実現します。
- ・市教科部会等の研修を充実させ、教職員の指導力向上を図ります。
- ・小・中連携教育において、望ましい学習態度や基本的な生活態度を身に付けさせられるように、共通実践事項の徹底を図ったり、諸学力検査の結果や課題、改善策を共有したりすることで小・中学校の連携をさらに充実させます。
- ・本市の家庭学習の目標時間小学1・2年生40分、3・4年生60分、5・6年生90分、中学生120分を確保できるように時間の使い方を身に付けられるようにしていきます。
- ・自主的に勉強に取り組めるように家庭学習の内容・やり方やノーマディア、メディアコントロールの取り組みについて家庭と学校が連携していきます。

■問合せ 学校教育課 TEL72-10170